



【韓国】 総合指数は週間で 0.9%安と反落、今週は 2200 ポイントで値固めか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 0.9%安と反落。10 日が祝日で休場のため、4 日間の取引だった。韓国や米国の金融政策を巡って思惑が入り混じる中、指数が 1 日ごとに上下する方向感に乏しい相場となった。インフレの加速で政策金利の引き上げが続き、経済成長の妨げになるとの懸念から、休場明け 11 日は前週末比 1.8%安と続落した。12 日は一転して上昇。韓国銀行（中央銀行）が同日、政策金利を 0.50%引き上げたが、中銀総裁の記者会見を手掛かりにハト派色を強めたとの受け止め方が広がった。13 日は前日の米株安を受けて 1.8%安と反落。ただ、同日に 9 月米 CPI が発表され、米株式相場が急反発すると、14 日の韓国市場もこうした流れを引き継ぎ、IT 株主導で大幅に反発した。今週は心理的節目の 2200 ポイントで値固めか。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で 1.4%安と 4 週続落、今週も地政学リスクが重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 1.4%安と 4 週続落。クリミア大橋の爆発やロシアによる報復を受け、地政学リスクの高まりが嫌気された。週明け 10 日は前週末比 4.1%の大幅安。クリミア半島とロシアを結ぶクリミア大橋の爆発とそれに対する報復を受けてリスク回避姿勢が強まり、終値で 1000 ドルの大台を割り込んだ。ガスプロムが配当落ちで急落したことや、対ドルでのルーブル安も重し。指数は 12 日に 1.1%下落したが、3 カ月ぶりの安値まで下げたルーブルが反発し、週後半は続伸した。個別銘柄ではエネルギーのロスネフチが 11.4%高、ノバテクが 7.5%高となった一方、エネルギーのガスプロムが 18.2%安、タトネフチ優先株が 5.8%安、産金のポリュスが 4.5%安と下落した。今週は地政学リスクが引き続き重しか。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 2.5%高と 7 週ぶりに反発、今週は引き続き堅調か

調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.5%高と 7 週ぶりに反発。企業スキャンダルで大きく下落したが、底打ち見通しが強まる中、海外勢の買い越しを追い風に反発した。指数は週明け 10 日に前週末比 0.6%高となったが、11 日は 3.5%安と大幅反落。大手不動産開発会社の会長が金融詐欺で逮捕されたことでセンチメントが悪化した。ただ、2021 年 1 月以来となる 1000 ポイント割れまで下落し、底打ち期待が高まる中、海外勢が買い越しに転じたことで指数は 14 日まで大幅に 3 日続伸した。個別銘柄では金融のベトインバンク、ベトナム投資開発銀行、鉄鋼のホア・ファット・グループが 2 桁高となった一方、金融のテクコムバンクが 5.7%、不動産のノー・バー・ランド・インベストメントが 3.8%、ビンホームズが 3.5%下落した。今週は堅調か。

▼指数チャート



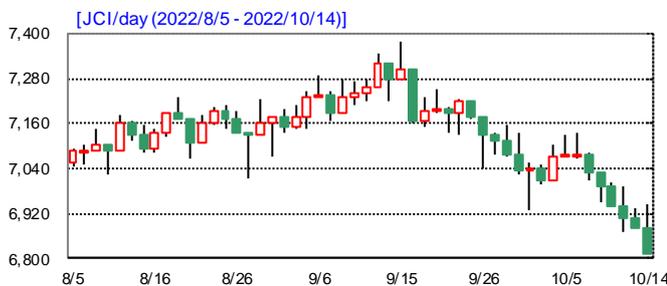


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 3.0%安、今週は 20 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 3.0%安と 3 週続落。週初に終値で 7000 ポイントを割り込むと、その後も下げ止まらず、週末まで 6 営業日続落した。10 日は米国の利上げ継続観測が高まり、世界経済の減速懸念が広がった影響で続落。13 日は前日に公表された 9 月開催分の米 FOMC 議事要旨でインフレを抑制するため追加利上げを実施する方針が示されたことが売り材料視された。14 日は引け際の売りが足かせとなり、終値で約 3 カ月ぶりの安値を更新している。今週は 17 日の 9 月の貿易統計発表に続き、20 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、3 会合連続での利上げが実施されるかが焦点。

▼指数チャート

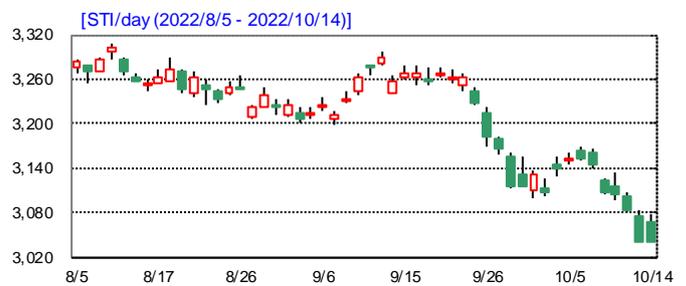


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 3.4%安、週末の終値は 21 年 3 月以来の安値を更新

ストレーツタイムズ指数は週間で 3.4%安と反落。週末まで 7 営業日続落と低迷した。週初の 10 日は、米国の利上げ継続見通しや中国株の大幅下落が売り材料視され、指数は前営業日比 1.2%安と 3 日続落。11 日は前日からほぼ横ばいだったが、12 日は終値で節目の 3100 ポイントを割り込んだ。13 日は米国の 9 月の CPI 発表を目前に控え前日比 1.4%安と売りが加速。14 日は 7-9 月期の GDP 速報値が前年同期比 4.4%増と市場予想から上振れしたものの引け際の売りが痛手となり、指数は終値で 21 年 3 月以来の安値を更新して取引を終えた。今週は 17 日発表の 9 月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.2%安、今週は連休明けの買い戻しに期待

SET 指数は 3 日間の取引で 1.2%安と 3 週続落。週後半に連休を控える中、じりじりと下値を広げた。週初の 10 日は、前週末に発表された 9 月の米雇用統計が堅調だったことを受けて 11 月の FOMC で 4 会合連続となる 0.75%の利上げが決定されるとの観測が強まった影響で売られ、指数は続落。11 日は米ドル高パーツ安が進み売り優勢の展開が続くと、12 日は 9 月の消費者信頼感指数が 44.6 と 8 カ月ぶりの高水準に達したものの補えず、4 日続落して連休前の取引を終えた。今週も国内の経済イベントが少なく、18 日に発表される中国の 7-9 月期の GDP や 9 月の鉱工業生産、小売売上高が意識されそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.7%安、今週は 9 月の CPI に注目

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 1.7%安と反落。買い材料に乏しく軟調な値動きが続いた。連休明けの 11 日は世界的な株安に連動して終値で 5 日ぶりに 1400 ポイントを割り込み、前営業日比 1.4%安と 3 日続落。12 日は 8 月の鉱工業生産が前年同月比 13.6%増と市場予想を上回ったものの効果は薄く下値を広げると、13 日は終値で 20 年 4 月以来の安値を更新した。ただ、14 日は前日の NY ダウが急反発した流れで買い戻され、終値で 6 日ぶりに反発して取引を終えている。今週は 19 日に 9 月の貿易統計、21 日に CPI が発表される予定で、前年同月比の CPI 上昇率は 3 カ月連続で 4%台になる見通し。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。